

公開実用 昭和60-175841

⑨日本国特許庁 (JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報 (U)

昭60-175841

⑫Int.Cl.

F 02 D 17/04
F 02 M 37/00
F 02 P 9/00

識別記号

庁内整理番号

8209-3G
6657-3G
8209-3G

⑬公開 昭和60年(1985)11月21日

⑭考案の名称 エンジンの燃料停止装置

審査請求 未請求 (全頁)

⑮実用新案登録番号 昭59-64496
⑯出願日 昭59(1984)5月2日
⑰考案者 岡田繁一 名古屋市中村区岩塚町字高道1番地 三菱重工業株式会社
⑱代理人 三菱重工業株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目5番1号
⑲復代理人 弁理士長屋二郎

を供給する。3は燃料を停止するための電磁弁で
気化器の燃料系統に組み込まれている。

電磁弁3への電源は図示しないべテリより供
給されていた。4はマフラー、5は点火プラグに
高電圧を供給する点火装置である。

燃料電磁弁3がない場合、エンジンを停止させ
るには点火装置5を電気的にOFFすることにより
行われるが、エンジンの停止開始より停止するま
でのエンジン空転時、気化器2よりの混合気がエ
ンジンに供給され、未燃焼のまま排出される。こ
のためマフラー内に未燃混合気が充満し、エンジ
ンの空転時又は停止後マフラー内のホットスポット
などの火点により着火爆発して、異常に大きい
音を発生する不具合がある。これを称してアフタ
ーバーンと言う。又一方点火系をOFFとしても、
吸入混合気は燃焼室内のホットスポットが火点と
なり燃焼し、エンジンを停止しようとしてもエン
ジンが回転する不具合を生ずることがある。これ
を称してラン・オンと言う。これらのトラブルを
防止するため従来は、燃料系統に電磁弁3を設け、

〔考案の実施例〕

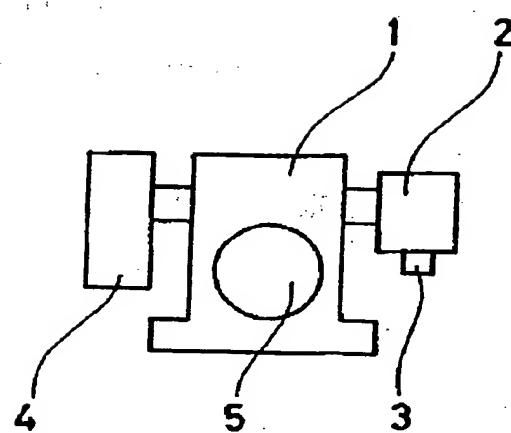
第1～2図で1はエンジン、2は気化器、3は電磁弁で通電により燃料が停止する。4はマフラー、5はフライホイールマグネット、6は発電用コイル、7は磁石でエンジンのフライホイールなどに取り付けられエンジン運転時発電用コイル6とあいまって交流電力を発生する。8は発電用コイル6より得られた交流電力を直流に交換する整流器である。1・2はスイッチで点火停止スイッチ1・3と連動して点火をOFFとすると同時に電磁弁回路に接続し、電磁弁を通電状態とし燃料供給を停止する。

なお1・3は停止スイッチ、1・4は断続器、1・5は高圧コード、1・6は点火コイル、Pは点火プラグである。

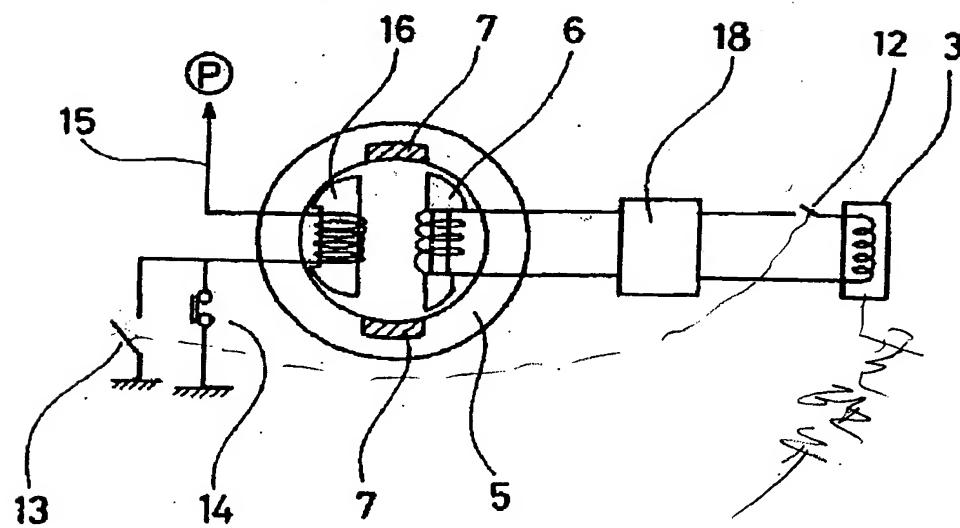
次に前記実施例の作用について説明する。

エンジン運転中発電コイル6により発電された電力は、整流器8で直流化され、直流電力が用意されている。今エンジンを停止するため、点火停止スイッチ1・3をONとして点火火花を消去した

第1図



第2図



465

復代理人 弁理士 長屋二郎

支局番号 111